

専門学校赤門自動車整備大学校 2019年度 授業計画 (シラバス)

学科名	一級自動車整備士科				
科目名	エンジン整備				
履修年次	3年次	履修学期	4月～10月、1月	授業形態	講義
総時限	23時限	単位時間数	41.4時間 (2.7単位)		
教科書等 持参品	教科書 (エンジン電子制御装置)				
教科担当	・高橋 翔太 ・上田 忠之 ・刈田 稔彦				
目的	エンジンに故障が発生した場合、正しい手順で的確に診断していくことができないと、多くの時間と労力を消費する。故障事例から正しい手順と診断方法を学習し、迅速で正確な診断・修理要領を習得する。				
概要	項目				時限
	第3章 高度故障診断技術				
	I 概要 1. 診断の基本 2. 電子制御装置に関する故障診断				3
	II 故障診断				
	1. エンジン警告灯点灯時の点検・整備方法				7
	2. エンジン警告灯無点灯時の点検・整備方法				7
	3. CAN通信システムの点検・整備				6
到達目標	高度なエンジン電子制御システムに故障が発生した場合に、的確な診断・修理ができる人材となる				
使用教材					
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合格 49～30点：2 29～ 0点：1 不合格				

専門学校赤門自動車整備大学校 2019年度 授業計画 (シラバス)

学科名	一級自動車整備士科				
科目名	エンジン電子				
履修年次	3年次	履修学期	4月～9月、1月	授業形態	講義
総時限	12時限	単位時間数	21.6時間 (1.4単位)		
教科書等 持参品	教科書 (エンジン電子制御装置)				
教科担当	・高橋 翔太 ・上田 忠之 ・刈田 稔彦				
目的	自動車のエンジンは電子制御化が進み、整備を行うためには電子制御システムの理解が必要不可欠となるため、エンジンを中心とした電子制御システムのセンサ、アクチュエータ、ECU制御等の理解を深める。				
概要	項目				時限
	第2章 高度整備技術				
	I 概要 II 構造・機能・点検 1. 電源回路				1
	2. センサ				
	1) 論理信号センサ				1
	2) リニア信号センサ				2
	3) 周波数信号センサ				1
	4) その他のセンサ				1
	3. アクチュエータ				
	1) スイッチング駆動アクチュエータ				2
	2) リニア駆動アクチュエータ				2
4. 通信信号				1	
5. ECU制御				1	
到達目標	高度なエンジン電子システムの理解				
使用教材					
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合格 49～30点：2 29～0点：1 不合格				

専門学校赤門自動車整備大学校 2019年度 授業計画 (シラバス)

学科名	一級自動車整備士科				
科目名	シャシ整備				
履修年次	3年次	履修学期	4月～2月	授業形態	講義
総時限	28時限	単位時間数	50.4時間 (3.3単位)		
教科書等 持参品	教科書 (シャシ電子制御装置)				
教科担当	・高橋 翔太 ・上田 忠之 ・刈田 稔彦				
目的	電子制御装置の導入により複雑化した各種シャシ装置に故障が発生した場合、正しい手順での確 に診断していくことができなければ、多くの時間と労力を消費する。故障事例から正しい手順と 診断方法を学習し、迅速で正確な診断・修理要領を習得する。				
概要	項 目				時 限
	I 電子制御式オートマティック・トランスミッション				
	第2章 高度故障診断技術				9
	II 電動式パワー・ステアリング				
	第2章 高度故障診断技術				9
	III アンチロック・ブレーキ・システム				
	第2章 高度故障診断技術				10
到達目標	高度なシャシ電子制御システムに故障が発生した場合に的確な診断・修理ができる人材となる				
使用教材					
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合格 49～30点：2 29～ 0点：1 不合格				

専門学校赤門自動車整備大学校 2019年度 授業計画 (シラバス)

学科名	一級自動車整備士科				
科目名	シャシ電子				
履修年次	3年次	履修学期	6月～7月、9月、2月	授業形態	講義
総時限	7時限	単位時間数	12.6時間 (0.8単位)		
教科書等 持参品	教科書 (シャシ電子制御装置)				
教科担当	・高橋 翔太 ・上田 忠之 ・刈田 稔彦				
目的	近年の自動車シャシは電子制御化が進み、従来の知識だけでは高度化された自動車のシャシを修理するには限界がある。そのためシャシに利用されている電子制御システムのセンサ、アクチュエータ、ECU制御等の理解を深め、診断能力の向上を図る。				
概要	項目				時限
	I 電子制御式オートマティック・トランスミッション				
	第1章 高度整備技術				3
	II 電動式パワー・ステアリング				
	第1章 高度整備技術				2
	III アンチロック・ブレーキ・システム				
	第1章 高度整備技術				2
到達目標	高度なシャシ電子システムの理解				
使用教材					
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合格 49～30点：2 29～0点：1 不合格				

専門学校赤門自動車整備大学校 2019年度 授業計画 (シラバス)

学科名	一級自動車整備士科				
科目名	電子理論				
履修年次	3年次	履修学期	4月～5月、7月～8月、 1月～2月	授業形態	講義
総時限	10時限	単位時間数	18時間 (1.2単位)		
教科書等 持参品	教科書 (エンジン電子制御装置)				
教科担当	・高橋 翔太 ・上田 忠之 ・刈田 稔彦				
目的	電気回路・電子回路の基本を習得するとともに電気・電子部品や回路の測定機器の正しい使用方法を学習し、電子制御化が進んだ自動車の診断・修理技術向上を図る。				
概要	項目			時限	
	第1章 電気回路				
	I 電気回路の概要			1	
	II 電気回路と電子回路の基本				
	1. 電気回路の構成			1	
	2. 電子回路の構成			1	
	3. 直列接続と並列接続の接続方法			1	
	III 電気回路の故障				
	1. 断線と短絡の事象			1	
	2. 電子回路の測定			1	
	IV 電気・電子回路の測定技術				
	1. サーキット・テスタの活用			1	
2. オシロスコープの活用			1		
3. 外部診断機の活用			2		
到達目標	電子制御システムの理解や整備時の基礎知識となる部分について理解を深め、あらゆる回路に対応できる人材となる				
使用教材					
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合格 49～30点：2 29～0点：1 不合格				

専門学校赤門自動車整備大学校 2019年度 授業計画 (シラバス)

学科名	一級自動車整備士科				
科目名	電装整備				
履修年次	3年次	履修学期	4月～9月、1月～2月	授業形態	講義
総時限	13時限	単位時間数	23.4時間 (1.5単位)		
教科書等 持参品	教科書 (シャシ電子制御装置)				
教科担当	・高橋 翔太 ・上田 忠之 ・刈田 稔彦				
目的	近年は自動車車内の空調装置も高度化が進み、故障した場合の診断・修理技術も高いものが要求されている。現在多くの自動車に採用されているオート・エアコンの構成・制御を学習し、快適な車内空間を維持できる知識・技術習得を目標とする。				
概要	項目				時限
	IV オート・エア・コンディショナ				
	第1章 高度整備技術				5
	第2章 高度故障診断技術				8
到達目標	オート・エアコンの部品・構造・回路・制御について理解を深め、的確な診断・修理ができる人材となる				
使用教材					
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合格 49～30点：2 29～0点：1 不合格				

専門学校赤門自動車整備大学校 2019年度 授業計画 (シラバス)

学科名	一級自動車整備士科				
科目名	新技術				
履修年次	3年次	履修学期	4月～7月、9月、1月～2月	授業形態	講義
総時限	24時限	単位時間数	43.2時間 (2.8単位)		
教科書等 持参品	教科書 (自動車新技術)				
教科担当	・高橋 翔太 ・上田 忠之 ・刈田 稔彦				
目的	日々進化する自動車の新機構・新装備について理解し、最新技術に対応できる自動車整備士を育成する。				
概要	項目				時限
	I エンジン				
	・第1章 ハイブリッド車				4
	・第2章 圧縮天然ガス (CNG) 自動車				4
	・第3章 筒内噴射式ガソリン・エンジン				3
	・第4章 コモンレール式高圧燃料噴射システム				3
	II シヤシ				
	・第1章 無段変速機 (CVT)				3
	・第2章 車両安定制御装置				3
・第3章 SRSエア・バッグ及びプリテンショナ・シート・ベルト				4	
到達目標	従来の知識だけでなく一部の自動車のみ採用されている技術についても知識を深め、あらゆるジャンルの自動車について診断・整備ができる人材となる				
使用教材					
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合格 49～30点：2 29～0点：1 不合格				

専門学校赤門自動車整備大学校 2019年度 授業計画 (シラバス)

学科名	一級自動車整備士科				
科目名	力学・数学				
履修年次	3年次	履修学期	5月～6月、2月	授業形態	講義
総時限	5時限	単位時間数	9時間 (0.6単位)		
教科書等 持参品	教科書(2級自動車シャシ)、数学問題集				
教科担当	・高橋 翔太 ・上田 忠之 ・刈田 稔彦				
目的	走行中の自動車は、あらゆる角度から振動と衝撃が訪れるため、車体に掛かる曲げ作用及びせん断作用などについて理解する必要がある。また、電気回路における電圧・電流・抵抗の計算要領を理解し、電気回路の整備・診断技術の向上を目的とする。				
概要	項目				時限
	第8章 フレーム及びボデー				
	1. 概要				1
	2. 構造・機能				
	1) フレームの構造				1
	2) ボデーの構造				1
	3. 整備				1
	外力・軸重の計算				1
到達目標	自動車整備における数学的計算が必要な知識を深め、正確な数値を算出することで自動車修理に活用できる人材となる。				
使用教材					
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合格 49～30点：2 29～ 0点：1 不合格				



専門学校赤門自動車整備大学校 2019年度 授業計画 (シラバス)

学科名	一級自動車整備士科				
科目名	燃料・潤滑				
履修年次	3年次	履修学期	7月～8月、2月	授業形態	講義
総時限	4時限	単位時間数	7.2時間 (0.4単位)		
教科書等 持参品	教科書(総合診断・環境保全・安全管理)				
教科担当	・高橋 翔太 ・上田 忠之 ・刈田 稔彦				
目的	自動車には様々な油脂類が使用されており、場所に応じて適切な油脂類を使用するだけでなく、油脂類ごとの特性の違いや、火災など災害を防止するための知識を深め、正しく安全に利用できる人材育成を目的とする。				
概要	項目				時限
	1. 油脂類の種類と特徴				2
	2. 防火の知識 (液体の燃焼、引火点と着火点、消火器)				1
	3. 危険物の取り扱い (危険物の保管又は取扱い)				1
到達目標	油脂類の知識を深めることで自動車整備に応用するだけでなく、油脂類が原因となって発生する災害を未然に防止できる人材となる				
使用教材					
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合格 49～30点：2 29～ 0点：1 不合格				

専門学校赤門自動車整備大学校 2019年度 授業計画 (シラバス)

学科名	一級自動車整備士科				
科目名	自動車材料				
履修年次	3年次	履修学期	10月～12月、2月	授業形態	講義
総時限	9時限	単位時間数	16.2時間 (1単位)		
教科書等 持参品	教科書 (基礎自動車工学)				
教科担当	・高橋 翔太 ・上田 忠之 ・刈田 稔彦				
目的	自動車は鉄鋼や非鉄金属だけでなく、ゴムやガラス、プラスチック等の非金属など多数の材料で構成されている。自動車材料について学習し、材料のメリットやデメリット、部位ごとの適切な材料などについて理解を深める。				
概要	項目				時 限
	1. 鉄鋼 (鋳鉄、鋼、熱処理)				3
	2. 非鉄金属 (銅、アルミニウム、亜鉛、鉛)				2
	3. 焼結合金				1
	4. 非金属 (ゴム、ガラス、ファイン・セラミックス、合成樹脂、 複合材、塗料)				3
到達目標	自動車の各部位に使用されている様々な材料の理解を深め、材料ごとの特性を考慮した自動車整備ができる人材となる				
使用教材					
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合格 49～30点：2 29～ 0点：1 不合格				

専門学校赤門自動車整備大学校 2019年度 授業計画 (シラバス)

学科名	一級自動車整備士科				
科目名	機器取扱				
履修年次	3年次	履修学期	9月～11月、2月	授業形態	講義
総時限	11時限	単位時間数	19.8時間 (1.3単位)		
教科書等 持参品	教科書(総合診断・環境保全・安全管理)				
教科担当	・高橋 翔太 ・上田 忠之 ・刈田 稔彦				
目的	高度化する自動車に合わせ、自動車整備に使用する機器も進化を遂げている。自動車整備に必要な整備機器の正しい取扱い方法を習得し、自動車整備の精度向上を目的とする。				
概要	項目				時限
	・各種工具の取り扱い (ハンマ、スパナ、やすり)				1
	・機械設備の取り扱い (ベンチ・グラインダ、インパクト、 卓上ボール盤、電気ドリル、ガレージ・ジャッキ、リフト、 チェーン・ブロック、充電器)				1
	・機械設備の安全点検 (ツイン・ポスト形リフト) 電気機器の取り扱い				1
	・電気回路の概要				1
	・電気回路と電子回路の基本				1
	・電気回路の故障				1
	・電気・電子回路の測定技術				1
	・デジタル・サーキット・テスタの活用				2
	・オシロ・スコープの活用				1
	・外部診断機の活用				1
	到達目標	機器の正しい使用方法と機能維持のためのメンテナンス要領を習得し、整備機器を十分に活用した点検・整備ができる人材となる			
使用教材					
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合格 49～30点：2 29～ 0点：1 不合格				

専門学校赤門自動車整備大学校 2019年度 授業計画 (シラバス)

学科名	一級自動車整備士科				
科目名	総合診断				
履修年次	3年次	履修学期	8月～2月	授業形態	講義
総時限	16時限	単位時間数	28.8時間 (1.9単位)		
教科書等 持参品	教科書(総合診断・環境保全・安全管理)				
教科担当	・高橋 翔太 ・上田 忠之 ・刈田 稔彦				
目的	お客様の自動車が故障したときの「受付」「問診」及び「診断」の要領や要点などを学習し、基本的な接客手法と総合診断を行う上で必要不可欠となる知識を習得する。				
概要	項目				時限
	第1章 自動車整備に関する総合診断				
	1. サービス産業の概要				2
	2. サービス産業としての自動車整備事業				2
	3. 顧客満足度 (CS) の概念				2
	4. 自動車整備事業におけるサービスの提供				3
	5. 自動車関係法令などの適切な運用とその活用				3
	第2章 応酬話法				
	1. 整備業務全般の実務				2
2. 整備業務の基本的な応酬話法				2	
到達目標	故障した車両を診断するときに必要な知識を習得し、故障探求を始める前に的確な方向性を見出すことができる人材となる				
使用教材					
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合格 49～30点：2 29～ 0点：1 不合格				

専門学校赤門自動車整備大学校 2019年度 授業計画 (シラバス)

学科名	一級自動車整備士科				
科目名	故障探求				
履修年次	3年次	履修学期	9月～2月	授業形態	講義
総時限	13時限	単位時間数	23.4時間 (1.5単位)		
教科書等 持参品	教科書 (シャシ電子制御装置)				
教科担当	・高橋 翔太 ・上田 忠之 ・刈田 稔彦				
目的	自動車の高級化、高品質化に伴い、使用者の車に対する期待も「より静かでより快適に」といった感覚的な要求が高くなっている。自動車の商品性を決定する要因として「静粛でなければ快適でない」という概念が確立しているため、不快な振動・騒音を分析・診断し、取り除くための知識を習得し、お客様が安心して自動車に乗れるための整備技術を習得する。				
概要	項目				時限
	V振動・騒音				
	第1章 高度整備技術				
	1. 概要 2. 振動と音				1
	3. 振動の表し方				2
	4. 音 (騒音) の表し方				1
	5. 振動と騒音の防止				1
	6. 計測機器 (振動系・騒音計)				1
	7. 車両各部の振動・騒音と低減の対応				1
	8. 振動・騒音現象のまとめ				1
	第2章 高度故障診断技術				
	1. 概要 2. 効率的な故障診断 3. 診断のポイント				1
	4. 振動・騒音の点検・整備				1
	5. 点検・整備方法の概要				1
6. 不具合現象の分類				1	
7. 故障診断方法				1	
到達目標	運転する上で不快な振動・騒音を分析・点検・修理する知識と技術を身に付け、お客様に快適なカーライフを提供できる人材となる				
使用教材					
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合格 49～30点：2 29～0点：1 不合格				

専門学校赤門自動車整備大学校 2019年度 授業計画 (シラバス)

学科名	一級自動車整備士科				
科目名	図面・製図				
履修年次	3年次	履修学期	1月～2月	授業形態	講義
総時限	3時限	単位時間数	5.4時間 (0.3単位)		
教科書等 持参品	赤門オリジナルテキスト (図面・製図)				
教科担当	・高橋 翔太 ・上田 忠之 ・刈田 稔彦				
目的	様々な記述法による図面を理解し、自動車部品などの配置や寸法、形状などを詳しく理解できる人材を育成し、第三角法による三面図や斜投影、等角投影法などによる図面作成ができる人材育成を目的とする。				
概要	項目				時限
	1. 製図の知識 (製図の種類、線の種類、寸法の記入等)				1
	2. 第三角法による三面図の作成				1
	3. 斜投影、等角投影法による図面の作成				1
到達目標	自動車部品の角度や寸法、自動車に取り付けられている配線や電装品の繋がりなどを分かりやすく伝えるための図面を書き出す知識と技術を身に付ける				
使用教材					
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合格 49～30点：2 29～ 0点：1 不合格				

専門学校赤門自動車整備大学校 2019年度 授業計画 (シラバス)

学科名	一級自動車整備士科				
科目名	安全管理				
履修年次	3年次	履修学期	9月～11月	授業形態	講義
総時限	6時限	単位時間数	10.8時間 (0.7単位)		
教科書等 持参品	教科書(総合診断・環境保全・安全管理)				
教科担当	・高橋 翔太 ・上田 忠之 ・刈田 稔彦				
目的	万が一、職場で事故や災害が発生すれば、その大きさによっては本人や職場の人たちのみならず、近隣住民に迷惑を掛けたり、損害を与えることもあるため、人道的な面からも社会的責任の面からも、安全管理は極めて重要な事である。安全管理を学習し、安心して仕事に専念できる職場環境をつくり出すことができる人材育成を目的とする。				
概要	項目				時限
	第1章 安全管理の意義 (安全管理の意義、安全管理の重要性、安全管理と作業能率)				1
	第2章 災害のあらまし (災害発生の仕組み、不安全状態と不安全行動、災害の起こる要件、 災害防止の急所)				2
	第3章 災害防止 (安全のルール、整理・整頓、作業場の注意事項、防火の知識、 危険物の取り扱い、応急手当についての心得)				3
到達目標	職場での災害を防止するための危機管理能力を身に付け、安全で快適な職場環境を構築できる人材を育成する				
使用教材					
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合格 49～30点：2 29～ 0点：1 不合格				

専門学校赤門自動車整備大学校 2019年度 授業計画 (シラバス)

学科名	一級自動車整備士科				
科目名	環境保全				
履修年次	3年次	履修学期	9月～10月	授業形態	講義
総時限	5時限	単位時間数	9時間 (0.6単位)		
教科書等 持参品	教科書(総合診断・環境保全・安全管理)				
教科担当	・高橋 翔太 ・上田 忠之 ・刈田 稔彦				
目的	温暖化や酸性雨、オゾン層の破壊、生活排水などに起因する水質汚濁、廃棄物の増大など、数多く抱える地球環境について理解を深め、自動車と環境の調和を図ることができる人材を育成する。				
概要	項目				時限
	Ⅱ 環境保全				
	第1章 地球規模の環境保全とその必要性				1
	第2章 資源の有効利用				1
	第3章 産業廃棄物処理の影響と対応				2
	第4章 整備事業場などにおける環境保全				1
到達目標	現在の地球環境の問題点について向き合い、将来の地球環境を考慮しながら取り組んでいく人材となる				
使用教材					
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合格 49～30点：2 29～ 0点：1 不合格				



専門学校赤門自動車整備大学校 2019年度 授業計画 (シラバス)

学科名	一級自動車整備士科				
科目名	自動車検査				
履修年次	3年次	履修学期	11月～2月	授業形態	講義
総時限	8時限	単位時間数	14.4時間 (0.9単位)		
教科書等 持参品	教科書(2級自動車シャシ)				
教科担当	・高橋 翔太 ・上田 忠之 ・刈田 稔彦				
目的	保安基準適合性確保の点検要領を学習し、道路運送車両法の保安基準に定める保安上又は公害防止その他の環境保全上の技術基準に適合していることを的確に点検できる人材育成を行う。				
概要	項目				時限
	第11章 保安基準適合性確保の点検				
	1. 概要 2. 点検の目的 3. 点検作業の流れ				1
	4. 各部の点検				3
	5. 検査用機器				4
到達目標	自動車の安全性確保、公害防止、環境保全のため道路運送車両法に精通した人材となり、基準に適合しているか否かを的確に判定できる人材となる				
使用教材					
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合格 49～30点：2 29～ 0点：1 不合格				

専門学校赤門自動車整備大学校 2019年度 授業計画 (シラバス)

学科名	一級自動車整備士科				
科目名	法規				
履修年次	3年次	履修学期	12月～2月	授業形態	講義
総時限	13時限	単位時間数	23.4時間 (1.5単位)		
教科書等 持参品	教科書(法令教材)				
教科担当	・高橋 翔太 ・上田 忠之 ・刈田 稔彦				
目的	「道路運送車両法」「道路運送車両の保安基準」「道路運送車両の保安基準の細目を定める告示」等の関係法令を学習し、自動車の安全性の確保や公害防止、その他環境の保全などについて理解を深める。				
概要	項目				時限
	I 自動車整備士技能検定制度のあらまし				1
	II 自動車に対する法規制の概要				
	III 道路運送車両法				4
	IV 道路運送車両法施行規則の別表				1
	V 自動車点検基準				2
	VI 道路運送車両の保安基準				5
到達目標	自動車に関する様々な法令について知識を深め、各種手続きやコンプライアンス能力を向上し、自動車業界で活躍できる人材となる				
使用教材					
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合格 49～30点：2 29～ 0点：1 不合格				

専門学校赤門自動車整備大学校 2019年度 授業計画 (シラバス)

学科名	一級自動車整備士科				
科目名	工場経営				
履修年次	3年次	履修学期	2月	授業形態	講義
総時限	7時限	単位時間数	12.6時間 (0.8単位)		
教科書等 持参品	教科書(総合診断・環境保全・安全管理、法令教材)				
教科担当	・高橋 翔太 ・上田 忠之 ・刈田 稔彦				
目的	自動車整備事業を行う場合に必要となる要件や関係法令、見積書の作成など、工場を運営するに当たり必要な知識は多岐にわたるため、必要な知識を習得し、将来自動車整備工場を運営できる人材育成を目的とする。				
概要	項目				時限
	1. 自動車整備事業に関わる法令 (第77条～第95条)				4
	2. 見積書、請求書の作成 (レバレート計算)				2
	3. CSとコンプライアンス				1
到達目標	将来自動車会社を開業し、自動車業界発展の中心的人材となれる知識を身に付ける				
使用教材					
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合格 49～30点：2 29～ 0点：1 不合格				

専門学校赤門自動車整備大学校 2019年度 授業計画 (シラバス)

学科名	一級自動車整備士科				
科目名	一般教養				
履修年次	3年次	履修学期	9月、1月～2月	授業形態	講義
総時限	7時限	単位時間数	12.6時間 (0.8単位)		
教科書等 持参品	教科書 (ソーシャル検定応用テキスト)				
教科担当	・高橋 翔太 ・上田 忠之 ・刈田 稔彦				
目的	身だしなみや立ち振る舞い、接客話法や社会人として必要なモラルなど、社会人になってから必要なスキルを身に着けることを目標とする。				
概要	項目				時 限
	第1章 仕事をするのに何故マナーが必要か				1
	第2章 基本的マナーをマスターしよう				1
	第3章 ビジネスの言葉を知る				1
	第4章 ビジネスでの心得・心構え				2
	第5章 常識を知ることマナー				1
	第6章 総括・復習				1
到達目標	卒業後、社会人として通用する人材となる ソーシャル検定 (上級) に合格できる知識を身に付ける				
使用教材					
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合格 49～30点：2 29～ 0点：1 不合格				